



国立大学法人

宮城教育大学 附属図書館ニュース

ISSN 1348-1525

こもれび

KOMOREBI

MIYAGI UNIVERSITY OF
EDUCATION LIBRARY NEWS



No.131

2017.7.21 発行



特集

先輩に聞く! レポートの書き方



CONTENTS

- 02 図書館インフォメーション
- 04 特集 先輩に聞く!レポートの書き方
- 08 私と本
- 10 学生の読書室
- 12 子ムエの本棚 こころを育むわらべうた
- 16 図書館と本のエトセトラ

図書館 Library Information インフォメーション

附属図書館長より ～着任のご挨拶に代えて



理想の図書館を求めて 中地 文



2017年4月1日付で着任しました。本学の教育・研究の進展のために精一杯尽くします。よろしくお願いいたします。

平成25年度に「第三次みやぎ子ども読書活動推進計画」の策定に携わってから、読書活動推進の支援者養成関係の仕事が頼まれることが多くなった。図書館の意義・役割、今後の在り方を強く意識するようになり、ここ数年、機会のあるたびごとに内外の図書館を見学している。特に印象に残っているのは、国内では岐阜市立中央図書館と富山市立こども図書館である。海外ではドイツのハンプルク青少年図書館 (Hoeb4U) やシュトゥットガルト市立図書館から刺激を受けた。

近年の公共図書館は、利用者に寄り添ったサービスに力を入れていて注目されるが、大学附属図書館も進化を遂げている。本学でも平成26年度に図書館にラーニング・コモンズを設け、グループワークや討論、模擬授業等、学生の多様な学びに対応できるようにした。その効果は、スパイラル・ラボの利用が著しく伸びていることから明らかである。

図書の収蔵と提供だけにとどまらない役割が、今、大学附属図書館に求められている。教育大学である本学では、今後さらに教育の未来を見据えた新しい図書館像を模索していかなければならないだろう。学び続ける人々を支援する理想の図書館を求めて努力していきたいと思っている。



『エール! レポート作成の 初歩2017』刊行

レポート作成の手引き書『エール! レポート作成の初歩2017』を刊行し、全学部生に配布しました。

大学に入ってはじめてレポートを書く1年生はもちろん、レポートの書き方を復習したい2～4年生にとっても、必読の手引きです。ぜひレポート作成のガイドブックとしてご活用ください!

また『エール!』は、本学機関リポジトリでも公開しています。図書館は、学生の皆さんの勉強や研究を「応援」しています!



● 宮城教育大学機関リポジトリ <https://mue.repo.nii.ac.jp/>



スパイラル・セッション 「こころを育むわらべうた」を開催しました

5月17日に今年度1回目のスパイラル・セッション「こころを育むわらべうた」を開催しました。講師は、本学・幼児教育講座の佐々木孝子先生。大勢の学生が参加しました。

たくさんのわらべうたを唄ったり、輪になって踊ったり、ペアになって触れ合ったりなど、参加者全員が一緒に身体を動かしながら知ることができました。佐々木先生の温かい声に、学生の明るい声が加わり、和やかな楽しい時間となりました。このセッションを通じて、佐々木先生から、触れ合うことの大切さや心地良さを改めて教えていただき、わらべうたへの興味関心がさらに高まりました。

このセッションの詳細は、今号の「子ムエの本棚」（12～15ページ）で特集しています。



指先で触れ合ったり、手をつないで踊ったり……わらべうたの楽しさを実感するひとときでした。



スパイラル・セッション「海外を知ろう!」を開催しました

5月24日と6月2日にスパイラル・セッション「海外を知ろう!」を開催しました。

カナダのマニトバ大学から短期留学で来ていた7名の学生の皆さんに、本国や大学について、さらには日本人学生にインタビューした結果なども発表していただきました。

留学生の皆さんは、日本の文化や習慣・風習の中でも、特に、ゲームセンターや高校生活、マスク、ウォシュレット、ごみの分別、オタク、猫などに関心を持ったとのことでした。

参加者からは、日本に来てからの感想をはじめ、数多くの質問が寄せられました。すずめ踊りが印象的だったなどの回答に、参加者から感嘆の声があがるなど、日本や仙台を見つめ直す機会ともなりました。



カナダの美しい風景



気になる日本の習慣・風物「マスク」

先輩に聞く！ レポートの書き方

図書館では「学修サポーター」による学修支援を行っています。サポーターの先輩が、図書館の効果的な使い方や、大学での勉強の仕方など、皆さんの学修のお手伝いをしています。今回の特集記事では学修サポーターの皆さんにレポートの書き方について語ってもらいました。

学修サポーターをはじめて

皆さんは、この4月から学修サポーターとして活動していますが、サポーターをはじめようと思ったきっかけは何ですか？ また、実際にはじめてみての感想は？

◎佐藤 学部時代によく利用した図書館で働きたい、また、自分の経験が役に立てれば良いと思ってははじめました。難しさもありますが、後輩が笑顔で帰って行くのを見ると、やはり嬉しいですね。

◎菅原 僕は、学部時代に、授業の作り方や研究の仕方などに悩んだことがあって。大学院生になって、そのような自分の経験を踏まえ、後輩のために生かせれば良いと思ってははじめました。徐々に利用者も増え、学修サポーターの存在が知られつつあるな、と実感しています。

◎小山 僕は、昨年度、学修サポーターをやっていた先輩から話を聞いてはじめました。学修サポーターは、同じ学生として、近い視線で接することができるのが良いと思います。



◎鈴木 僕は将来、司書教諭になる時に備えて、経験を積みたいと思ったからです。まだ不慣れですが、利用者の課題を解決できた時、達成感を感じます。

◎前田 僕も小山君と同じように、先輩から紹介されてははじめました。自分の知識や経験が目に見える形で役に立つので、やりがいを感じます。

記憶に残るレポートのこと・ レポートを書く上で心がけていること

では、皆さんがこれまで書いてきたレポートで、特に印象に残っているレポートはありますか？ また、レポートを書く上で心がけていることは何でしょうか？

◎佐藤 レポートとは異なりますが、自分は「教職実践演習」という4年生最後の授業の実践が大きな経験になりました。バレーボールの系統性について図書館で本や雑誌を調べ、過去の実践を参考にしました。自分は、レポートを書く上では、構成をしっかり考えることを心がけています。構想を立てる訓練を積むと、教員採用試験などの小論文でもきつと役に立ちますよ。

◎菅原 必修の「ジェンダー論」のレポートが印象に残っています。自分が子どもの時にはランドセルには黒と赤の二色しかありませんでしたが、今はどうなんだろうと疑問に思い、広告やCM、インターネットなどを調べました。レポートを書く上では、どんなテーマにも応えられるよう、常日頃から広くアンテナを張っておくことが大事かな。

◎小山 僕は学部2年生の前期に、生物学のレポートで1万字を超えるレポートを書きました。



学修サポーターの皆さん(左から)前田諒(大学院社会教育専修2年)、鈴木貴大(教職大学院2年)、小山晃徳(理科コース4年)、菅原恭平(教職大学院2年)、佐藤仁紀(教職大学院1年)

学修サポーターとは？

サポート内容

- 資料の探し方
- 図書館の使い方
- レポートのまとめ方
- パソコンの使い方
- 授業案の作成のヒント など

探している本が見つからない！
レポートの印刷ってどうやるの？など、
ちょっとした疑問でもお気軽にご相談ください！

活動時間・場所

- 月曜日～金曜日 14:30～17:30 (授業期間中)
- 図書館1Fカウンターとなり、緑のジャンパーが目印です。

◎一同 卒論並みだね！

◎小山 (笑) そのレポートは2つの段階に分かれていて、最初に「微生物と自分の食事」というテーマで、次に「生物多様性と都市」というテーマで書きました。その上で最終的に、その2つのテーマを「環境教育と共生」という1つのレポートにまとめました。とても過酷でしたが、でも、レポートを書くためには、本当に色々な本や文献を調べて、知識を得て、様々な意見を比較して、その上で自分の意見を述べるのが大事なんだなと、実感しました。

◎鈴木 僕は、レポートを書くために、まずTSUTAYAに行って、1時間くらい、どのDVDを借りようかなと悩んだことが印象深いです。

◎菅原 え、何のレポート？

◎鈴木 それは、欧米の近現代史の授業で、移民や民族の問題などを扱うものでした。レポートのテーマは、普通の映画の中に垣間見える欧米社会の移民や民族問題をさがして論じる、というものです。登場人物の話す言葉からスラングを見つかったり、そのスラングが生まれた歴史的な背景などを調べたりして論じなければならなかったのが、大変でした。でも、日本語の字幕の内容と実際の英語の内容とが違っていたり……など、様々な発見がありましたよ。僕が題材に選んだのは、クリント・イーストウッド監督の『グラン・トリノ』です。

それから、レポートを書く時には、基礎的なことですが、適切に引用することを心がけています。正しく引用すれば、自分の意見を補強することもできますしね。

◎前田 立派な話が続いたので、自分は取って「しくじり先生」で(笑) 大学2年の心理学のレポートでは、提出3時

間前に書きはじめました。直前まですっかり忘れてしまっていて……でも、レポートの構成はあらかじめ考えていたので、何とか3時間で書き上げることができました。この体験がトラウマになっている、というわけではありませんが、それ以来、時間に余裕をもってレポートを書きはじめるようにしています。

それと自分は、相手にしっかり伝わる文章を書くように心がけています。校正作業を入念に行っていますし、また場合によっては友だちなどに読んでもらうこともあります。

図書館の効果的な使い方

レポートを書く上で図書館の効果的な活用の仕方を教えてください。

◎佐藤 図書館で調べものをする時には、自分が何を、どこまで知り、理解しているのか、整理しておくのと良いと思います。このことは、先生に質問をする時にも大事なことです。

◎菅原 レポートを書く時、そもそもテーマをどう絞って良いかわからないことがあります。例えば、近代文学作家について論じよというレポートの場合、対象となる作家が多すぎて、どのように絞ったら良いかわからなくなってしまう。そういう時は、図書館の事典を調べてみると良いですね。また、図書館はジャンルごとに本が並んでいるので、まず関連する本棚を眺めてみることも1つの方法です。

◎小山 理科の分野では、インターネットで情報を調べることは、あまり推奨されてはいません。不確かな情報も多いからです。菅原さんも言いましたが、図書館で本棚を眺めてみると、きっとレポートに関連する本が見つかるはずです。そして、その1冊を最初の手がかりに

して、さらに、どんどん蜘蛛の巣状に関連する本をさがしていくと良いと思います。

●鈴木 レポートを書く時には、1階の事典コーナーを活用すると良いと思います。このコーナーには、一般的な事典も、専門的な事典もあります。事典はインターネットの情報に比べてはるかに信頼性が高いので、専門書などと並行して使うのが効果的です。事典は借りることができないので、ぜひ図書館で使ってください(笑)

●前田 自分は学部時代には民俗学を専攻し、常に様々な場所にフィールドワークに行っていました。まず行動する(笑) だから自分は、ある程度テーマが決まったら、まず図書館に行き、図書館を歩き回り、面白そうな本を借りてきます。そして、その本に掲載されている参考文献などを参考に、さらに本をさがし、借りてきます。この方法を取ると、自分の関心や興味も明確になってくるので、とても良いですよ。とりあえず図書館に来てみる(笑)

●佐藤 そう、とりあえず図書館に来て、本棚を眺めてみることは大事ですね。それから、事典は、教材観や指導観を作成する際にも役立つということを伝えておきたいです。

新入生へのアドバイス

最後に、これから本格的にレポートを書く新入生にアドバイスはありますか？

●佐藤 自分のアドバイスは、レポートの執筆を、その後も様々な活かして欲しいということです。例えば、特別支援の授業のレポートを執筆することで得られる知識は、教員採用試験でも役に立つはずですよ。レポートを書くことで学んだ知識を、そのレポートだけで終わ

らせることは決してせず、その知識を今後、自分はどのように活かしていけるのかということも考えながら、全力でレポートに取り組んでほしいです。

●菅原 新入生はまだ大学に入学したばかりで、レポートという言葉にも馴染みがないかもしれません。高校までの作文や感想文と、レポートとはどのように異なるのか、それすらもまだ十分には区別が付いていないかもしれません。だから、レポートを書くことに迷ったり、困ったりした時には、はじめの一歩として、僕たち学修サポーターが解説し紹介した、レポート執筆のための「オススメ本」を、ぜひ手に取ってほしい。そうすれば、きっと4年間の素敵な大学生活を送れるはずですよ(笑)

●小山 僕も、レポートを提出することだけを目的にしてほしくはないですね。レポートを書きながら身に付けた知識は、後に必ず役に立ちます。だからレポートを書き終えたら、簡単にまとめを作って、いつでも参考にできるように、学んだ知識を整理しておくとも良いと思います。レポートを書き終えた後の振り返りも大事にしてほしい、ということです。そして、それくらい余裕を持った大学生活を送ることが理想ですね(笑)

●鈴木 菅原君と被るのですが(笑)、1冊でも良いので、レポート執筆のための「オススメ本」を読んでみると良いと思います。

●菅原 おーっと、その「オススメ本」はどこにあるのですか？

●鈴木 学修サポーター席の隣りにあります(笑) 1冊読むか読まないかで、その後のレポートに対する認識が大きく異なってくると思います。だから大学に入学して間もない時期に、そのような「オススメ本」を読んでほしいと思います。そうすれば、レポートに対する理解が劇的に変わります(笑)

●前田 昔、ある先生から、下手な文章を読むと自分も良い文章を書けなくなると聞きました。これは逆もまた然りで、良い文章をたくさん読めば、きっと良い文章を書けるようになると思います。図書館には良い文章の本がたくさんあります。この4年間で、そのような良い文章にたくさん触れましょう。

●一同 綺麗にまとまったね(笑)



(2017年5月22日 附属図書館教育実践資料室)

学修サポーターによるレポート執筆のための「オススメ本」

月曜日
担当

佐藤仁紀のオススメ



戸田山和久『論文の教室』

新版、NHK出版、2012年8月

レポートを書いてみた！でも、本当にこれでいいのかな……。お悩みの皆さんにこの本がおススメ！この本では、レポートが全く書けない大学生と先生の掛け合いの中で、感想文を論文にするためには何が必要で何が足りないのかについて分かりやすくまとめてあります。ポイントをまとめながら進んでいるのも、後から見返しやすくてよいです！読めばあなたも、立派な論文が書けるようになるはず！

火曜日
担当

菅原恭平のオススメ



小笠原喜康

『大学生のためのレポート・論文術』

新版、講談社、2009年1月

「レポートって何？」——そう聞かれてあなたは即答できるでしょうか？受験期という名の氷河期を越えて、夢のキャンパスライフへと進んできた皆さんにとっての次なる宿敵はレポートなのではないでしょうか。安心してください。かくいう私もそうでした。本書では、レポートと感想文の違いとは何かから、論理的な文章を書くために絶対に落としてはいけないポイント、さらにそこに色づけする際に使えるポイントまで網羅されており、レポート初心者からレポート玄人までのバイブルとなり得る珠玉の一冊です。本書を読めば今後課題にぶつかるときに、効率よく短時間で、かつ論理的で説得力のあるレポートを書き上げていくでしょう。本書を読み終えたあなたのキャンパスライフが、より一層輝いていることを願ってやみません。

水曜日
担当

鈴木貴大のオススメ



河野哲也

『レポート・論文の書き方入門』

第3版、慶応義塾大学出版会、2002年12月

この本は、大学ではじめてレポートを書くと思っている人などに対して、大学でのレポートや論文とは何か、どう書くのかというのを初歩から説明している本です。感想文とレポート・論文とを区別しながら、レポート・論文の構成の仕方をハウ・ツー的にまとめてあります。また、「テキスト批評」というレポート・論文を書く上での非常に有効な準備方法についても詳しく説明されており、特に1、2年生にお薦めします。

木曜日
担当

小山晃徳のオススメ



望月 俊男・山下 清美監修、富永敦子編著 『読み手・書き手と対話する 大学生のための文章表現ワークブック』

専修大学出版局、2014年4月

本を選ぶ時、見た目は大事だ。ポップな見た目に「易しそうな感じだ」とイメージをする。まさにこの本はレポート作りに悩んでいる1・2年生にぴったりである。活字ばかりの本ではなく、頭の中に内容がすっと入りやすい。この本を読了した後は、4年間の大学での勉強を進めていく上で必須になる基礎的なリテラシー能力が身に付くだろう。積極的に情報を探し、様々な角度から問いを発し、論理的に筋道だった主張を構成し、それらに基づいてレポートにまとめるプロセスを例題に沿って理解することができる。今後、一生、生きていく力になるだろう。目前の評価に即つなげる。

金曜日
担当

前田諒のオススメ



田中共子編

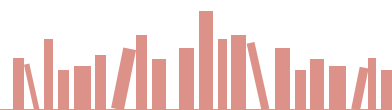
『よくわかる学びの技法』

ミネルヴァ書房、2003年4月

この本は6人の大学の先生が、大学での有意義な過ごし方について考えまとめた本です。この本のいいところはとにかくその守備範囲が広いこと！大学で学ぶ姿勢から始まり、講義の聴き方、ノートを取り方、文献の探し方、本の読み方、英語論文の読み方、レポートの書き方、野外調査のまとめ方、進路の選び方(大学院・留学)などなど……。レポートはもちろんそれ以外にも、きっとあなたの不安を解決する手がかりになりますよ！



サポートデスクで
お待ちしています!



本の楽しみ方

国語教育講座 講師

津田 智史

みなさんはどんな風に本を楽しみますか。趣味で読む本、教養のために読む本、ときにはレポートのために渋々読む本もあるでしょう。ここでは、少し変わった本の楽しみ方をご紹介します。興味のある方は、ぜひ試してみてください。

1. 五感で楽しむ 一本を選ぶとき、装丁などの視覚情報だけで選ぶのではなく、ぜひ本を手に取り、その匂いを嗅いでみてください。特に新しい本の場合ですが、鼻先でペラペラとページをめくってみると、紙自体の匂いやインクの匂いなどがします。当然ですが、本によって匂いが異なります。また、紙質によって、手に馴染むものとそうでないものがあります。ページのめくりやすさも本を読み進めるのには重要な一つの要素です。タイトルや文章の響きなど、聴覚に訴えるものもあるでしょう。ただ、本を舐めてみるのだけはやめておいた方がいいでしょうね。あなたが今日借りた本は、どんな匂いですか？



2. 背景の物語を読む 一本には多くの場合、本文だけでなく「まえがき」や「あとがき」が載っています。ぜひこれらの部分も読んでみてください。「まえがき」には、その本の目的や執筆経緯が書かれています。それを読めば、なぜその本がまとめられたのかが見えてきます。一方で「あとがき」には、執筆時に苦労したことや謝辞など、執筆した人の本音に近い思いが書かれています。そこを読むと、その本の背景の物語が見えてきます。これらの内容を読むことで、新たな視点で本文の内容を楽しむことができるはずです。

「雰囲気」から「本気」の学びへ

社会科教育講座 准教授

佐々木 達

学生時代、自分の将来に対して漠然とした不安を抱きながらも群れて行動することが苦手な私が、好んで通い詰めたのは図書館の文庫・新書コーナーであった。

文庫はサイズと値段が手ごろというだけでなく、気軽に誰でも手に取ることができる。学生にとっても勉強する「雰囲気」を持たせてくれる最良の図書であった。他方の新書も、書架には絶版本や希少本などが並べられており、これまで知らなかった本との出会いに心が弾むこともしばしばであった。不勉強な私は、図書館の一角に整然と配架された多数の文庫・新書を前にして、背表紙を眺めているだけで勉強した気になっていた。とくに、大学に入学したばかりの頃に本を借りるために参考にしていたのが、貸出カードの年月日スタンプであった。

「みんなが読んでいるものは面白いはずだ」と勝手な思い込みではあったものの、今振り返ってみると図書館ならではの世代を越えた知の拠点としての役割を活用していたのかもしれない。

ところが、本学の図書館に入ってみると、いまや文庫や新書はごく限られた数しか所蔵されていないことを知った。非常に残念である。図書館は、文庫や新書も含めて多くの蔵書を保有しているがゆえに、「雰囲気」の勉強から「本気」の学問へのいざないの場として存在している。かつての私のような不勉強な学生のためにも「雰囲気」の勉強をする機会はあるかもしれないと思った次第である。

通学の電車やバスの中で

教職大学院 准教授

小澤 晃



私は、昭和から平成にまたがって宮城教育大学に通っていました。最初の1年は実家のある角田市から原付バイクと電車、バスを乗り継いで通学していました。毎日、片道2時間の小旅行です。

高校生までは「読む」と言ったら漫画ぐらいで、読書という読書はほとんどしていませんでした。しかし、毎日の



住井すゑ『橋のない川』第1部
新潮文庫、1981年

大学への小旅行の中で、電車やバスに乗っている時間が往復で3時間ほどありましたので、さすがに手持ちぶさたになり、自然と読書するようになりました。時間はたっぷりありましたので、できるだけ長い小説を選んで読んでいました。

例えば、『戦争と平和』（全4巻）、『レ・ミゼラブル』（全5巻）など、どちらも3,000ページはあったかと思います。その中で、おそらく一番長かったのは、住井すゑの『橋のない川』（全7部）で、全5,000ページ以上はあったのではないのでしょうか。読み終わるまでに3～4ヶ月かかったように覚えています。『橋のない川』は、差別・部落問題を取り上げたもので、そこに興味をもち、その後、島崎藤村の『破戒』を読んだり、差別問題についてちょっと調べてみたりしたこともありました。

きっと、長時間通学をしていなければ、こんなに読書することはなく、何かに興味をもち、深く追求しようとする姿勢もできていなかったと思います。そう考えると、あの1年は、私の人生の岐路の一つだったかもしれません。

心に残る一冊 ～泣いた赤おに～

教職大学院 准教授

大沼 あゆみ



私の子どもが小さかった頃の思い出です。毎晩、寝るときに「お話して。」とせがまれるので、その日の出来事、昔話、即興で作った物語等々、いつも話して聞かせるのが我が家の定番でした。話している私の方が先に眠ってしまい、「それで?」と聞き返されたり、つじつまの合わないことを言ってしまう……。



浜田廣介・梶山俊雄絵『泣いた赤おに』
信成社、1992年12月

ある晩のこと……。その日に限ってなかなか話したいことが浮かんできません。どうしようかと考え思い付いたのが、『泣いた赤おに』でした。このお話は当時、私が担任していた子どもたち

と一緒に学習発表会で取り組んだものでした。息子はまだ小学校入学前。理解力も十分でなかったので、簡潔に要点だけを話しました。ただ、最後の場面だけは原文に近い形で話したくなりました。

「赤おには、だまって、それを読みました。二度も三度も読みました。戸に手をかけて顔を押し付け、しくしくと、なみだを流して泣きました……。」気が付くと、息子も泣いていました。絵がなくても文字を読まなくても、このお話のよさが伝わったのだと思います。

それ以来、『泣いた赤おに』は特別なものになりました。担任した子どもたちに読み聞かせをしたり、印象に残った場面を絵で表現させたり……。『泣いた赤おに』は、今でも我が家のアルバムの一ページを飾っています。

第25回

My Favorite Books

学生の読書室

読み終えたとき、明日を生きていこうと思える
「希望」と「救い」が広がる



『何もかも憂鬱な夜に』

中村文則、集英社文庫、2012年2月（原著2009年）



中等教育教員養成課程 国語教育専攻1年 西條 淳平

25歳という若さで文壇に登場、28歳の時『土の中の子供』で芥川賞を受賞し、現在も活躍を続ける作家「中村文則」。本学にも『土の中の子供』『教団X』の2作品が所蔵されていますが、今回紹介する作品は彼の6つ目の作品『何もかも憂鬱な夜に』です。

主人公の「僕」は施設で育った刑務官。現在は控訴期間中の20歳の死刑囚「山井」を担当しています。「僕」は自分とどこか似ている「山井」がまだ何かを隠しているように感じ、控訴をするよう勧めますがなかなかうまくいきません。そうした「山井」と接する中で、「僕」自身が抱える、とある事件が起きた友人の記憶、大切な恩師とのやりとり、自分の中の混沌が描かれます。ここまで読んでくださった方は「だいたい重たい話だなあ……」と感じられるかもしれません。実際、扱っている題材は殺人、死刑、自殺と、かなり重たく暗い作品です。この本を少し読んでみて「気持ちが悪い」と感じられた方はすぐに本を閉じて別なことをなさることをお勧めします。（読み切っても辛いだけかもしれません。）きっと、この本に興味を持てず捨てられる人生の方が幸せです。ですが、人生そう上手くいくものではなく、とにかく憂鬱で辛い夜もある。そんな夜に全編を通して水と心が繊細に描かれるこの作品を手にとってみてください。読み終えたとき、そこには辛くとも明日を生きていこうと思える「希望」と「救い」が広がっているはずです。



名作『バッテリー』の続編。終わってから始まる、新たな物語

『ラスト・イニング』

あさのあつこ、角川文庫、2009年1月（原著2007年）



初等教育教員養成課程 情報・ものづくりコース2年 菊池 一真

ラストイニング、野球で最終回を意味する言葉。これがこの本のタイトルだ。この物語は野球の才能がありながら、野球という道から離れた青年、瑞垣の目線から語られる『バッテリー』のその後の話。

すでに終わりを迎えたはずの物語。だが、その物語の裏でまた新たな物語が始まる。これはそんな新たな物語。

瑞垣の目線から語られる、かつてのチームメイトたちやライバル、そしてライバルとまたグラウンドで巡り合うためだけに自らの道を選んだ親友。



そして、野球を辞めた自分という存在。

誰よりも器用で天才肌の青年はかつての戦いを通してまた大人へと近づいていく。

野球には最終回まで何が起こるかわからない、そんな言葉がある。

この本はそんなドキドキ感、何とも言えない青年時代の葛藤、そして青年たちの成長を通して、懐かしいかつての自分たちを思い出させてくれる。

今まで続いた彼らの物語のラストイニングを楽しんでほしい。



木島悟と村田みのり。
絵を介して語られる、二人の高校生の物語

『黄色い目の魚』

佐藤多佳子、新潮文庫、2005年11月（原著2002年）



大学院教育学研究科 高度教職実践専攻1年 日下 萌奈

“「おまえ、面白い絵を描くかもな」その言葉は、キラキラした透明な光みたいに泥んこの落ち込みの中にいた俺のところにやってきた。”

今はもういない父親の言葉。絵を描くのが好きな木島悟の古い記憶。

“絵が好き。すごくすごく好き。美術の時間、木島の絵を見ながら、ずっとずっと感じていた思い。”

イラストレーターの叔父だけに心を許していた村田みのりの気付き。

章ごとに交互に語られる二人のそれぞれの物語が読者を心地よい混乱に陥れる。「主人公は悟とみのり、一体どっちなんだ？」

二人が生きているのは、なんだかどうもうまくいかない、たくさんの嫌いなものと少しの好きなもので出来ている世界。そんな中、高校生になった2人が出会う時、また新しい物語が動き始める。そしてもっと読み進めてからようやく読者は気づくのだ。主人公は絵をめぐるすべての登場人物たちなのだ、と。

絵を描かない人。絵を観ない人。そんなあなたもきっと、悟の絵に惹き込まれるはず。きっと、みのりの眼になって絵を見つめるはず。悟の鉛筆の走る音と、それを見つめるみのりの息遣いを、ぜひ聞いてみてください。



「教育」をテーマにした青春群像劇の金字塔

『みかづき』

森絵都、集英社、2016年9月



大学院教育学研究科 高度教職実践専攻2年 小野寺 仕

2017年本屋大賞第2位、満月になりきれない途上の「みかづき」のように永遠に完成しない「教育」をテーマにした青春群像劇の金字塔ここに登場！！

物語は用務員室で穏やかな性格で子供を教えることが得意な大島五郎と強気な性格で戦後の公教育への反感から塾経営に没頭していく妻・千明が出会うことから始まる。夫婦とその子供たちが3世代に渡り、戦後から現在に至るまでの受験戦争や子どもの貧困などの教育問題に立ち向かい、ときには家族同士で衝突しながらも乗り越えていこうとする様が生き生きと描かれます。

私が好きな所は五郎と千秋の孫の一郎が家庭環境に問題を抱える子供たちが無料で勉強を教えて貰える場所を作り出そうと奮起するところです。ボランティアなどで学習支援を行ったことがある方なら、きっと胸に来るものがあると思います。教育大生にこそ、手に取って頂きたい、そんな一冊です。

原稿大募集

「こもれび：宮城教育大学附属図書館ニュース」は皆さんの投稿で成り立っています。特に「学生の読書室」は、学生の皆さんにお薦めの本を紹介してもらうコーナーです。読後の感想や想いをこの場で表現してみましょう。

下記の必要事項を記入の上、Eメールに文書を添付してお送りください。いつでも原稿募集中。ご投稿お待ちしております。

必要
事項

- ☒ コース・専攻、学年、お名前、連絡先
- ☒ 紹介したい本のタイトルとその著者名、出版社、ISBN
- ☒ 紹介文(400字程度)

提出
方法

- ☒ 次のメールアドレスあてに提出してください。
toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

注意
事項

- ☒ こもれび次号は3月発行です。 ☒ 原稿は、こもれび編集委員会で選定の上、掲載します。
- ☒ 採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。

子ムエの本棚



子ムエの本棚は、児童書に関する話題をお届けするコーナーです。今回は、平成29年度第1回スパイラル・セッション「こころを育むわらべうた」に参加した学生のみなさんが、「わらべうたあそび」について学んだことや感想をまとめました。また、ご指導くださった佐々木孝子先生からもメッセージをいただきました。

こころを育むわらべうた

子ども読書活動推進事業の一環として、わらべうたあそびが各地の公共図書館等で行われています。このわらべうたあそびの意義・効果を理解し、実践のための技術を身に着けようという目的で、附属図書館では、平成29年5月17日（水）に、スパイラル・セッション「こころを育むわらべうた」を開催しました。講師を務めてくださったのは、本学幼児教育講座特任教授・佐々木孝子先生です。参加者は学生を中心に約35名、わらべうたあそびを実際に体験しながら、わらべうたあそびのよさなどについて学びました。その要点を、初等教育教員養成課程子ども文化コースの1年生が報告します。



講師・佐々木孝子先生
専門は伝承遊び、障害保育学

1 わらべうたあそびとは

わらべうたあそびとはどのようなものなのか、今回、佐々木孝子先生は次のように教えてくださいました。

わらべうたあそびは昔からあるものですが、古いものではありません。形を変えながら、今も歌い継がれています。日本語の音韻を踏んだ、日本語を母語としたあそびです。わらべうたは、はっきりとした作者がいなくても多く、いくつか種類があります。子どもたちが遊びの中で作っていったもの、日本人が日本人を育てるために作ったもの、赤ちゃんがしっかり発達しているかを測るために歌われたものなどがあります。

先生のお話を伺って、はっきりとした作者がいなくてもかわらず、今も多くの歌が歌い継がれて親しまれているわらべうたあそびは、後世に残していくべき素晴らしい文化だと思いました。（継枝里穂）

2 わらべうたあそびのよさ

わらべうたあそびのよさについては、5点、教えていただきました。

1つ目は、拍がはっきりしていることです。音域に無理がなく、歌に極端な高低差がありません。そのため歌が苦手、得意に関係なく歌いやすく親しみやすいのが特徴です。

2つ目は、生活に密着した素材であることです。子どもを取り巻く外界には様々な約束事があります。わらべうたあそびはそれらの関係性を理解する力を養いながら、友だち関係を深めていくことができます。

3つ目は、身体と身体が触れ合う遊びであることです。身体と身体が触れ合うことで言葉を介さないコミュニケーションになります。

4つ目は、言葉が弾んだ世界であることです。動作が簡単であり、短いまとまりで輪郭がはっきりしていて、自発的な模倣動作を引き出しやすいという特徴があります。次ページの「でーろ でーろ」の歌はその例です。

5つ目は、人間関係を遊ぶ世界であることです。この点については、次ページの項目「5」で詳しく述べます。

以上のような説明を伺い、さらに佐々木先生のご指導のもと、わらべうたあそびを体験してみましたが、言葉によるコミュニケーションよりも、わらべうたあそびのような身体と身体が触れ合うコミュニケーションのほうが緊張もほぐれ、距離も縮められるように感じました。

（佐藤由菜）



3 わらべうたあそびの世界から伝わること

わらべうたあそびの意義に関するお話もありました。

わらべうたあそびは、拍を手で取りながら歌うものが多いため、子どもがリズム感の基礎を知ることができ、先生やお母さんがわらべうたを歌っているのをマネしようとして模倣力も高めることができます。また、みんなで輪になったり交代で鬼になっていくわらべうたあそびでは、集団で遊ぶ楽しさを知ることができたり、役割や順番といった集団生活の中で必要なことを学びきっかけにもなります。いろいろな人とコミュニケーションをとりながら行うわらべうたあそびを通して、「母と子」「先生と子」「子と子」の公平さを実感することもできます。

わらべうたあそびは、子どもの人格や社会性の形成に重要な役割を担っているということを、今回学ぶことができました。（小笠原舞花）

4 わらべうたあそびを通して母子関係を考える

佐々木先生は、わらべうたあそびで母子関係を考えることができますということを特に詳しく教えてくださいました。例として「ここはとうちゃんにんどころ〜♪」をあげて説明します。これは、二人で組になって親子で遊びます。「とうちゃん」と歌いながら左のほっぺを、「かあちゃん」と歌いながら右のほっぺを、「じいちゃん」と歌いながらおでこを…と、顔の部位をとんとんしていきます。このような触れ合いは、親子のスキンシップにつながります。それだけでなく、この撫でるという動作によって具体的に子どもをかわいがることができます。

このように、わらべうたあそびには、親と子が同じ動作をすることで母子関係が対等であると子どもに伝え、同時に自分が受け入れられているという肯定感とぬくもりも与える効果があります。(須藤唯)



5 心の栄養としてのわらべうたあそび

最後に佐々木先生から、わらべうたあそびが心の栄養になるというお話をいただきました。人間の発達には人間関係の発達ともいえます。人と関わることにより心も豊かになり、人間として成長するためのきっかけとなるからです。わらべうたあそびには一人で遊べるものもありますが、友人と大勢で遊べる楽しいものもたくさんあります。大勢で楽しむことにより、わらべうたあそびを通じて自分の中にどれだけの他人がいるかを実感することができます。日々の生活の中でわらべうたあそびに関わることによって、心を開くようになる子どももいます。

日本の伝統であるわらべうたあそびは、人間関係を遊ぶことができます。私は今回の講座を受け、とても楽しく心が温まりました。(柴田雛子)



わらべうたあそびの実践

今回のスパイラル・セッションで佐々木孝子先生から教えていただいたわらべうたあそびをいくつかご紹介します。みなさんも動作をつけながら一緒に歌ってみましょう！(河原千緒、斎藤梨緒、松田豊人)

♪よいこ よいしょと だっこして
♪よいこ よよし ねんねしな

親や先生の気持ちになって、
両手で子どもを抱えるようにし、
前後にゆすり、
子どもを愛する心で
うたいましょう。



♪でーろ でーろ つのだせ でーろ

両手をグーにしてリズムに合わせて上下に振り、
最後の「でーろ」の時に親指を立てましょう…。



♪お～ちゃを の～みに
きてください(①)



♪はい
こんにちは(②)



♪いろいろおせわに
なりました(③)



♪はい
さようなら～(④)



輪になってみんなで体を動かしながら楽しみましょう。大人数でやるときには中に入る人を増やすといいそうです。



学生の感想

感想

幼児教育コース1年 高橋 佳乃

今回の講義に参加して、わらべ歌遊びは人を自然に笑顔にするなぁと感じました。特に、一緒に参加した人達と手をつないだり、顔を触ったりする機会があった際に、恥ずかしく思いながらも心がホッとするのを実感しました。私は、このホッとする感覚がわらべ歌遊びの良さなのかな、と思います。また、どの曲もテンポがゆっくりしていて、メロディも単純なので私たちにも挑戦しやすいです。いつかどこかで小さい子と触れ合う機会があったならば、今回教えていただいたわらべ歌遊びを一緒にしてみたいです。

感想

子ども文化コース1年 宮田 夏帆

講習の中で体験したわらべうたは、ほとんどが周りの人と手をつないだり、相手の顔を手で触ったりと、優しく周りの人と触れあって行うものでした。自分が幼いころに両親や幼稚園の先生とわらべうたで遊んだことを思い出し、とても懐かしく感じました。講習を通して改めて学んだことは、子どもとの関係にはやはり触れ合いが大切だということです。触れ合うことで親から子への、先生から児童への愛情が伝わっていくのではないかと思います。

感想

幼児教育コース1年 宮野 真由

今回初めてスパイラル・セッションに参加して、直接将来の役に立つような子供との触れ合いを知ることができた。現代社会では共働きが多く、親と子供が直接触れ合うことが少なくなっているという聞く。そんな中、お母さんやお父さんと手と手を取り合って一緒に歌って楽しくコミュニケーションをとることのできるわらべ歌は、もっと多くの人に知ってもらい、実践されるべきだと感じた。私も将来保育園や幼稚園で、また親になったときに、わらべ歌で子供と楽しく遊びたいと思った時間だった。

感想

幼児教育コース3年 渡邊 愛美

今回のスパイラル・セッション「こころを育むわらべうた」に参加させていただき、わらべうたのよさを再認識することができた。私たちの年齢でも笑顔がこぼれ、楽しんでいる姿が多く見られていた。親子間や先生・子どもの間で行う機会が増えてくれば、互いのぬくもりを感じ、心の距離も近づいてより良い関係を築けるのではないと思う。私自身も、たくさんの引き出しを用意して現場に出ることができるよう、これからもわらべうたに励んでいきたいと改めて思うことができる良い機会となった。

感想

子ども文化コース1年 小暮 詩歩

今回の講座では、二人組で見つめあって歌ったり、みんなで手をつないで輪になったりして遊びました。とても楽しく、あたたかい気持ちになりました。遊ぶために必要な道具がない手軽さと、直接触れ合ったり声を合わせて歌ったりすることで心の距離を縮められるところに、わらべうたの魅力を感じました。ゲームなどが発達して直接コミュニケーションをとる機会が減っている現代だからこそ、わらべうたで楽しく交流を図ることが大切だと思いました。





感想

幼児教育コース3年 高橋 ちはる

参加してみて、普段触れ合うことのできないコース、学年の人たちとわらべうたを通して交流できてとてもたのしかったです。小さい時や小さい子どもたちと遊ぶためのわらべうた、と考えていましたが学生同士でも十分にあたたかい雰囲気のなかでおこなうことができました。1年生の時に教えてもらったわらべうたもいくつかあり、その時の記憶を思い出しながらすることができました。

対子どもでもやるわらべうたを教えていただいたので、次回もしあれば子ども数人で遊べるわらべうたを教えてくださいな、と思いました。孝子先生、ありがとうございました。

感想

幼児教育コース3年 松橋 遥香

わらべうた講座では、他の学年、他のコースの人たちと一緒にわらべうたをしました。授業で習ったわらべうた以外にも新しいわらべうたを学ぶことができました。となりに座っている人とペアになって指と指をくっつけたり、顔に触れたりするわらべうた、みんなで手を繋いで大きな輪になるわらべうた、新しい誰かとペアになるわらべうたと、色々なわらべうたを実際にやりました。触れたり触れられたりするわらべうたは少し恥ずかしいですが、恥ずかしさよりも温かい手でやさしく触れられる嬉しさのほうが残りました。わらべうたが母と子の大事なコミュニケーションツールだということを実感しました。90分あっという間で楽しい時間を過ごすことができました。

先生から

わらべうたあそびをしていると、
優しい気持ちになります……ね。

幼児教育講座 特任教授
佐々木 孝子

人間関係は母と子がスタートであり、たっぷり愛してもらった子は安心、嬉しい気持ちを抱いて自分に自信をもち、意欲につながっていくといわれています。可愛がってもらった経験はその後の育ちに大きく影響していきます。わらべうた遊びは、ことばではなく具体的にこどもを可愛がることの大切さを教えてくれるものだと思います。わらべうたは音域が狭いので歌いやすくこどもたちが模倣しやすいものばかりです。触れ合いながら大人もこどもも「仲良し」を体験します。触れ合いが少なくなっている今だからこそ見直したいかわり遊びでもあります。また、日本語を母語とする私たちにとってその調べは心地よく、美しい響きが耳から自然に入ってきます。相手の声に耳を傾けよう、相手の仕草をよく見ようなど、遊びを通して五感も育ててくれるようです。

そして、わらべうた遊びをしていると、なぜか笑顔がこぼれ、優しい気持ちになっていきます。人間関係を遊ぶからでしょうか？

わらべうたについて、もっと詳しく知りたい人へ



本間雅夫・鈴木敏朗『わらべうたによる音楽教育——遊びと合唱・幼児から小学生へ』（自由現代社、1982年7月）

この本は、大まかに分けて(1)わらべうたを用いた年齢別音楽教育、(2)音楽教育小史、(3)理論的根拠の三部構成となっています。(1)では、今回の講座でも登場した「よいこ」「せんぞやまんぞ」「すっかときって」などのほかにも、たくさんのわらべうたが楽譜や指導法とともに丁寧に紹介されています。(2)では、音楽教育の面から詳細に説明が加えられ、(3)では、なぜわらべうたを中心に音楽教育を行っていくべきだと考えられているのか、また集団形成にどう役立つかなどが述べられています。この本を読んで、幼児の音楽教育が大切なことに気がつきました。幼稚園、小学校教員を志す人にはもちろん、将来親になったときにも参考になると思うので、全ての人にお薦めの一冊です。(小池叶恵・水戸花和)

図書館と本のイトセトラ

et cetera

第4回

図書館のなかの
ドラマ

図書館や本をめぐる話題から毎回、テーマを決め、さまざまな本・作品を取り上げます。
今回も前回に引き続き、図書館のなかで起こる「ドラマ」を描いた作品を紹介します。



■天沢退二郎『光車よ、まわれ!』

ちくま文庫、1987年5月(原著1973年)

小学生の一郎が、神秘的な少女・龍子に導かれ、突如現れた謎の「敵」と戦うファンタジー。敵を倒すためには魔力を秘めた「光車」が必要。しかし「光車」とはいったい何なのか? 一郎たちは、「光車」の手がかりを求めて、深夜の「国立図書館」に忍び込みます。光と闇の鮮烈なイメージに満ちた傑作。本書は現在ではポプラ文庫ピュアフルで入手できます。

著者は、フランス文学者で詩人、かつ宮沢賢治研究でも広く知られています。



■ジェームズ・ドーハーティ文・絵 『アンディとらいおん』

むらおかはなこ訳、福音館書店、1961年8月

ある日、図書館に出かけたアンディは「らいおん」の本を借りて帰りました。

本を読みふけるうちに「らいおん」の不思議な魅力に惹きつけられたアンディは、寝ても覚めても頭の中は「らいおん」のことです。

そんなアンディがある日、本物の「らいおん」と出会い、助けてあげたことからふたりの友情がはじまります。さてふたりの行く末は?



■柏葉幸子作、山本容子絵 『つづきの図書館』

講談社、2010年1月

入院したおばさんのお世話をするために、ふるさとへと戻った桃さん。そのおばさんのツテで働き始めた図書館で起こる予想外で不思議な出来事に、桃さんはパニック寸前!!はだかの王様や魔女といった架空の生き物たちが絵本の中から飛び出してきては、「つづきが知りたい!」と無茶なお願いを繰り返します。

“つづき”というワードは、未来へつながる好奇心を抱かせます。ままならない人生だからこそ、日々をつづけていくことが愛おしくなるお話です。



■ラルフ・イーザウ『秘密の図書館』

酒寄進一訳、ソフトバンククリエイティブ、2005年10月

臆病者の青年カールは「古本屋の店員 兼 後継者」の求人を見てトルッツ氏の古本屋を訪れます。一見普通の古本屋でしたが、その奥には無数の本が色とりどりに輝く秘密の図書館「ファンタジーエン図書館」がありました。ここでは大量の本が消え、代わりに「虚無」が発生する事件が起こっていました。本の消失の謎を解明するため、カールはファンタジーエンの世界へと向かいます。カールは図書館の危機を救えるのか? ミヒャエル・エンデの『はてしない物語』のオマージュともいえる作品です。

編集後記

今号の特集記事で取り上げたように、現在、図書館では学修サポーター5名が活動しています。図書館の使い方や文献の探し方、勉強の仕方、レポートの書き方などについて、学修サポーターの先輩が、様々に支援します。ぜひご相談ください。また、附属図書館のスパイラル・セッションでは、後期に向けて新しい企画を検討しています。スパイラル・セッションにも、ぜひご参加ください。

本誌の内容や宮城教育大学附属図書館の活動・運営に関するご意見・ご要望がありましたら、図書館カウンターまたは下記の連絡先までお寄せください。



宮城教育大学附属図書館

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL: 022-214-3350

E-mail: toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

こもれび No.131

【編集発行】

宮城教育大学附属図書館
運営委員会

附属図書館オフィシャルサイト

<http://library.miyakyo-u.ac.jp/>



このパンフレットは環境に
配慮した「水なし印刷」により
印刷しております。



環境にやさしい植物油インク
「VEGETABLE OIL INK」で
印刷しております。